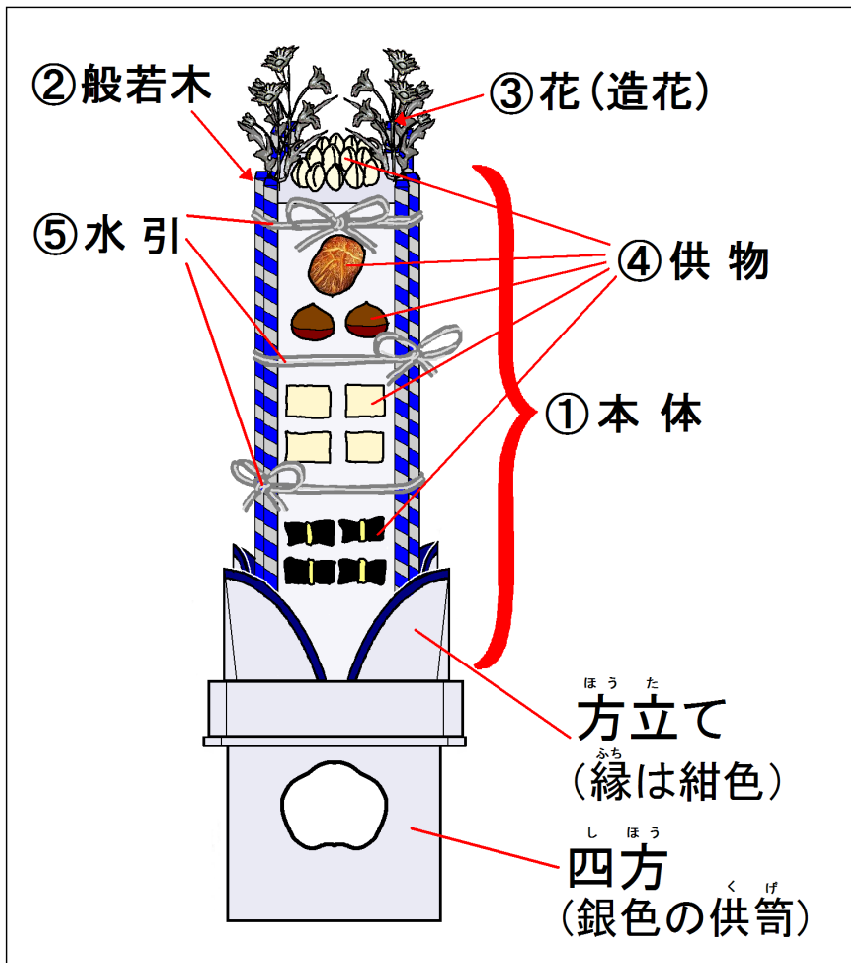


こん か ぺい 根菓餅の製作例



左図は葬儀用の根菓餅の参考例です。

本体の5面（胴体の4面と上面）に、供物を貼り付けて飾ります。

葬儀用の根菓餅には濃銀（ぎんだめ＝銀色）の四方（四角の供筭）を用います。

① 本体（およそ14cm×14cm×43cm）

大きめの一升瓶の箱（142×142×428mm）がちょうど良いサイズで、便利です。（昔は角材を用いていたそうです。）段ボールで自作しても良いです。

※風が強い場所に設置する場合は、安定させるために、箱の中に「重し」を入れておきます。

本体は、全面に銀紙を貼ります。（銀スプレーで塗装するのも良いでしょう。）

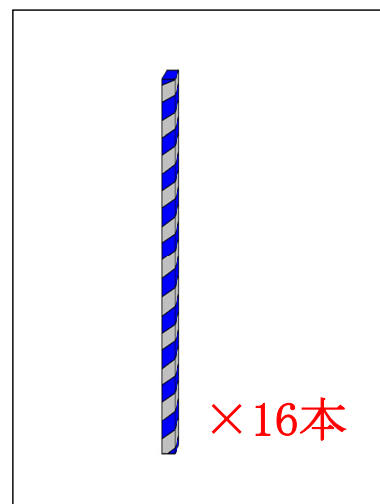
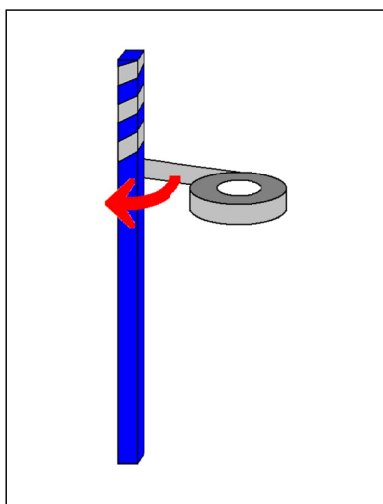
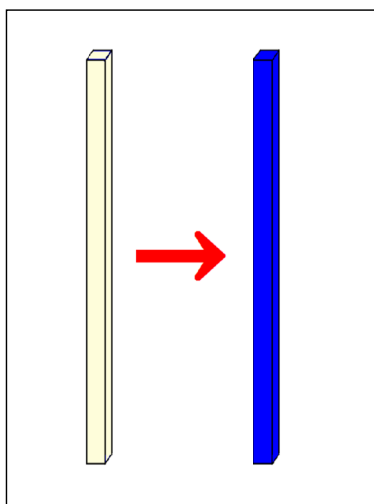


② 般若木

本体の四隅に付ける計8本の木を「般若木」と呼びます。

般若木は、1 cm角の角材で、本体より2 cmほど長くします。

※ホームセンターなどで、9mmないし12mm角で長さ1820mmの物が手に入ります。それを4等分すれば455mmになり、ちょうど良い長さになります。

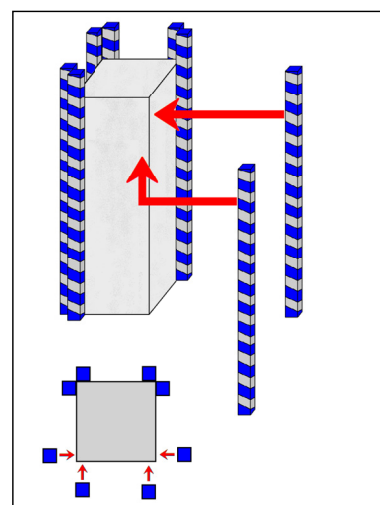


用意した角材の全面に紺(または青)色のビニールテープを巻きます(塗装しても良い)。そうして出来上がった「紺(青)色の棒」に、1 cm幅の銀色テープを螺旋状に巻きます。

本体1つに8本取り付けるので、1対なら16本必要です。

※般若木の取り付け

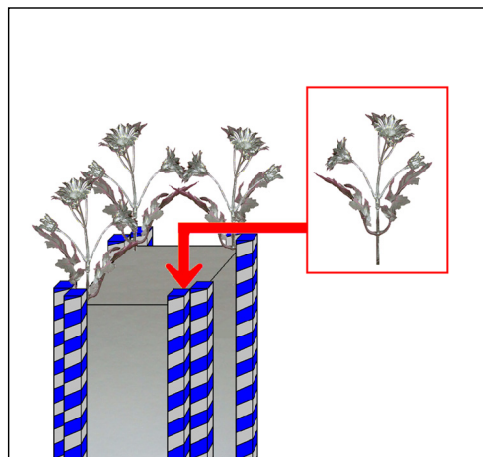
本体の四隅に「般若木」を、両面テープなどで取り付けます。(本体よりも般若木を2 cmほど高くします。)



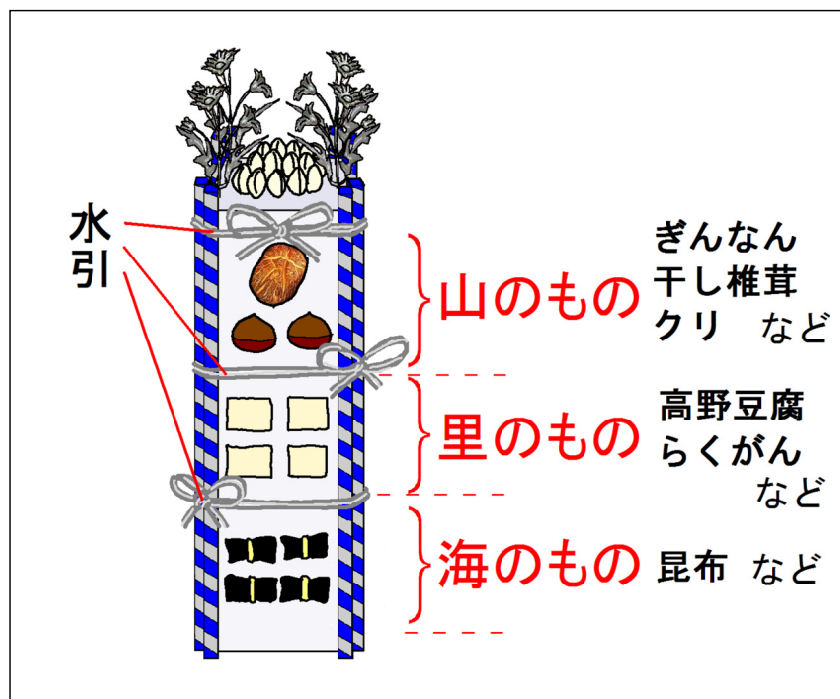
③ 本体の天井の四隅につける「花」

適当な大きさの造花を銀色に塗装して作ります。本体1つに4本(一対では合計8本)使います。

(花を取り付けるのは一番最後でも良い。錐(キリ)などで穴を開けて差し込みます。)



④本体に「供物」を貼り付けます。



供物は、底面以外の5面に貼り付けます。

貼り付ける供物は、山・里・海の乾物など、日持ちがするものです。干瓢や干菓子、飴なども用いられます。

上から「山・里・海」の順に貼るという説と、「山・海・里」の順という説があります。

実際には供物を「どこに・何を貼り付けるか」という細かい規定はありませんので、制作者の自由な発想で飾り付けて下さい。

供物の貼り付けには両面テープや虫ピンでもできますが、「ボンドガン」を使うと作業の能率が上がります。

出来上がった根菓餅は、濃銀(銀色)の「四方」(四角形の供笥)に載せます。

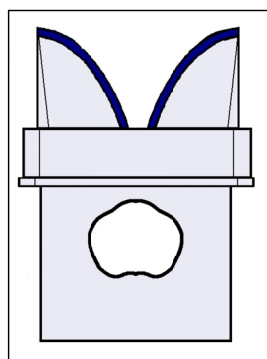
方立ても銀色で、紺色の縁取りのものを用います。

⑤銀色の「水引」を結びます。

銀色の水引の紐を3本くらい用い、三段程度結びます。

上のイラストでは、結び目をずらしてみましたが、正面の中心線に揃えても構わないようです。

以上で根菓餅の完成です。



「四方」

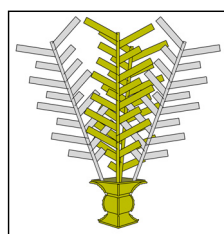


「ボンドガン」

【材料のまとめ】 (根菓餅 1 対分)

- 1) 山・里・海の供物……適量
- 2) 本体 (タテ・ヨコ14cm、高さ43cmぐらいの立方体) …… 2個
- 3) 般若木にする角棒 (タテ・ヨコ1cm、長さ45cmくらい) ……16本
- 4) 造花 (本体の上辺四隅に立てる) …… 8本
- 5) 銀色の水引 (紐)
- 6) 銀紙 (本体に貼る。銀色塗料で代用できる。)
- 7) 般若木に巻く銀テープ (1cm幅のもの。2cmのものを半分にしても良い。)
- 8) 般若木に巻く青 (紺) テープ (般若木全面に巻く)
- 9) 銀色塗料 (造花を塗装する)

【紙華について】



三具足の場合は金・銀2本ずつ挿します。

五具足の場合は、向かって左に銀4本・右に金4本挿します。

